

(A) モリアラガエル (*Rhacophorus schlegelii* var. *arborea* Okada et Kawano) の小観察

本種は蛙のうち有舌類 (*Rhaneroglossa*) 固胸亜目 (*Firmisternia*) 赤蛙科 (*Ranidae*) 青蛙属 (*Phacophorus*) に属するものであり本州・四国・九州の山地に産し常には樹上生活者であるが産卵期(5~6月下旬)になると水辺に寄って来る。この繁殖習性は本邦産の蛙中で一番かわっており産卵の際には1雌に4~5匹の雄が抱きつきこれが雌とともに後肢で卵をうみ次第それをつつんでいる膠質物(これは相当ねばっこく始末にこまる程のものである)をこねまぜて泡にして大きさ11cm×10cm×10cm程の卵塊をつくり、中に400~600個の淡黄色の卵黄に富んだ直径約30mm位の卵を入れる。この卵塊ははじめは乳白色で軟いが次第に乾燥して外側は丁度鉄のようになり内部は次第に液化して卵はこの中で孵化しほどよく成長すると卵塊の下部に孔があいてオタマジャクシは水中に落ち自由に水中を泳ぎまわる。

私はかねてからこの変わった習性をもつ蛙の成体や卵塊・産卵状況を見たいと思っていたところ本年(1957)6月23日建部恵潤氏の御厚意により実栗郡安富町皆河で成体雌1匹と卵塊を得ることが出来たので拙い観察記録ではあるが筆をとることにした。氏の案内により自転車で行くうち左手の山麓、水田のほとりの樹間にそれらしい白いものが数個望見されたので、さてこそと自転車をすてて蛙を小走りに近づいて見ると正しく求める卵塊であった。早速カメラにおさめたものが写真1及び2である。写真の卵塊のついているのはウツギであるが他の所では柿・梅についでいた。卵塊をつける樹木は特定ものではないようであるが必ず水につき出た枝につけていた。卵塊の大きさや形は種々であるが略前記の通りであった。卵塊1ヶをもち帰り水溜に水を入れ竹をわたしその上にのせておいた所5日目に下側に孔があき約10mm位のオタマジャクシが一斉にポタポタと水中に落ちて行き仲々活潑に泳ぎまわり早速茹菜をあたえるときも美味そうに喰っていた。

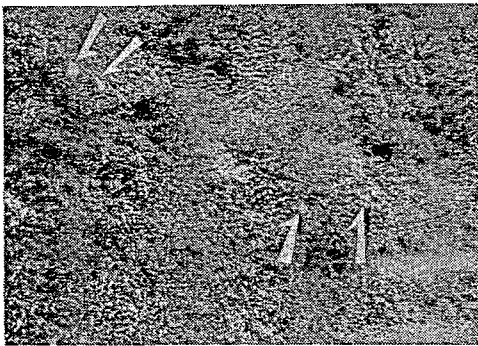


写真1：卵塊の遠景(矢印卵塊)

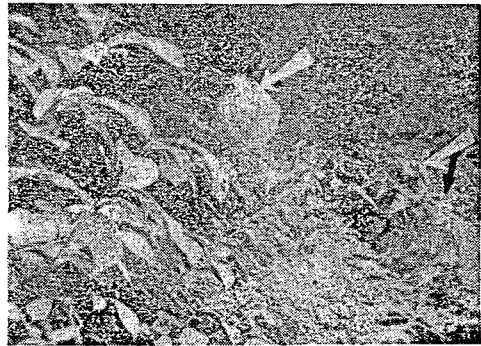


写真2：ウツギに産みつけれられた卵塊(矢印卵塊)

オタマジャクシはコンクリート製流しで飼育しているが後肢のみ生じたもので観察すると次の如くである。

(図1・2参照) 全長は40mm内外、体は卵形でその長さは尾部の約半分、眼は側背部吻端より体長の約4分の1の所にあり、鼻孔は吻端と眼の中間にある。鰓孔は肛門より眼に近く斜上方に向かう管状突起にひらく。口盤は小さく斜下方に向かい、乳状突起は上唇側縁及び下唇下側面縁にあり、上顎嘴は上がやや平らな半円状をなし下顎嘴細はV字状で共に幅ひろく内縁は細鋸歯状を呈す。歯列は「蛙学」を見ると $\frac{1}{2} : 3 + 3$ 即

ち上唇第1列は完全、第2・3・4列は左右に分れ、下唇第1・2列は完全、第3列は左右に分れていている。しかし私の観察では若いものではすべてそうになっているが十分に成長した後肢の出たものでは約半分(40匹中22匹は) $\frac{1}{2} : 4 + 4$ の歯列をもつていた。尾部は次第に幅狭くなり先端尖る。背面の体色は灰黒色、腹面は淡灰色にして小斑点あり。尾部の体色は灰色にして小黒点がある。

成体の特徴については日本動物図鑑に出ている通りなので省略する。

(参考文献) 市川 衛著 蛙 学

〔B〕 双頭のオタマジャクシ

イモリの受精卵を毛で括り双馬のオタマジャクシを作ることが出来ることはシュペーマンの手によってなされた興味ある実験であり、又数研出版社発行の教科書「生物」にはイモリの初期のう胚を35°Cで24時間処理して得られた双頭の写真が出ている。ところで私

が本年5月に人為3倍体を作るため人工受精後7分を経過したダルマガエル(*Rana nigromaculata bripipoda*)の卵に40°Cで10分間高温処理を施したところ卵約600個中より偶然1匹の双頭のオタマジャクシが発生した。高温処理をすると種々の奇形が現われるがこのようなものは面白いと思うので紹介する次第である。(写真4・5)

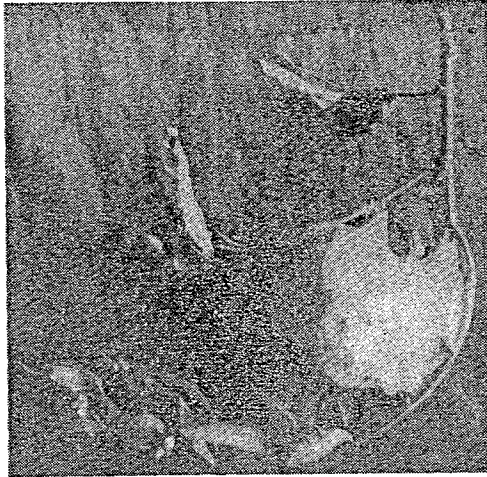
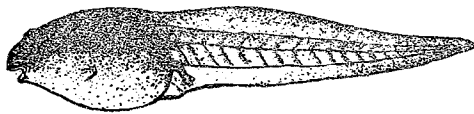


写真3：持ち帰つれ卵塊



全形 ×1.8

図1：オタマジャクシの全形

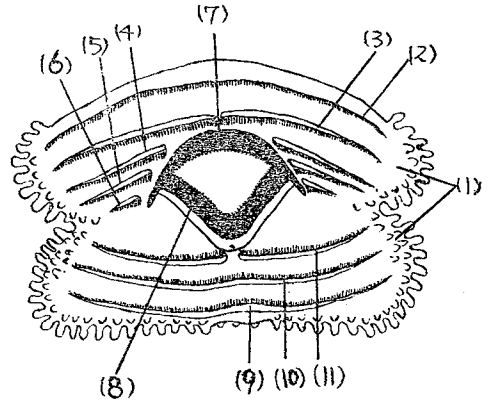


図2：オタマジャクシの口盤

(後肢を生じ上唇第五歯列の見られるもの)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 乳頭状突起 | 7. 上顎嘴 |
| 2. 上唇第一歯列 | 8. 下顎嘴 |
| 3. 同 第二歯列 | 9. 下唇第一歯列 |
| 4. 同 第三歯列 | 10. 同 第二歯列 |
| 5. 同 第四歯列 | 11. 同 第三歯列 |
| 6. 同 第五歯列 | |

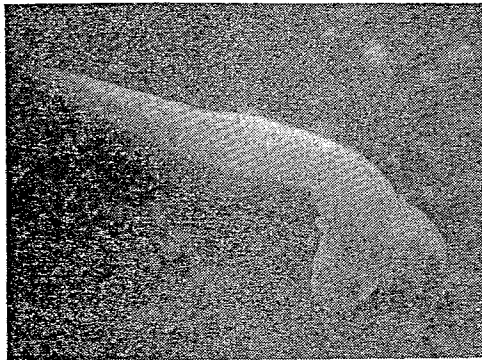


写真4：受精後2週間(全長8mm)

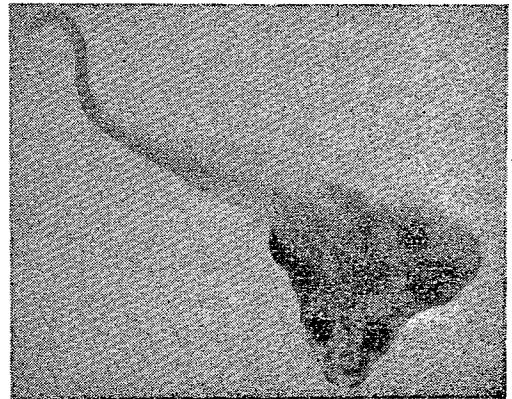


写真5：受精後3週間にて死亡、液浸にしたもの(全長12mm)

訂正 第3巻第3号143頁

〔第二表：3倍体の出現率〕

3倍体数上より2匹、5匹、6匹とあるのは6匹、13匹、4匹の誤りにつき訂正します。